

Japanese Scandinavian Radiological Society

日本スカンジナビア放射線医学協会

会報36号, 2023年



目次

特集

協会の歴史回想..... 3

都倉栄二様のこと..... 4
隈崎達夫「沛然」より転載

Karolinska再訪..... 6
田島 廣之(埼玉医科大学国際医療センター 画像診断科 特任教授/日本医科大学 名誉教授)

参加報告記 スウェーデン大会2023

案ずるより産むがやすし..... 8
平澤 裕美(群馬大学医学部附属病院 放射線部)

北欧の水の都 ストックホルム..... 10
石井 芳樹(山形大学医学部放射線医学講座)

June's JRSR Academic Symposium: Intellectual Delights in Beautiful Stockholm..... 12
Gu Wenchao(筑波大学 医学医療系 臨床医学域 放射線診断IVR科)

二度目の北欧へ..... 16
関 優子(群馬大学医学部附属病院 放射線部)

初めての北欧へ..... 20
佐藤 有将(群馬大学医学部附属病院 放射線部)

初めての国際学会口述発表..... 24
竹内 友一(群馬大学医学部附属病院 放射線部)

Progress in Radiology 2024 開催のご案内..... 29
大会長 対馬 義人(群馬大学大学院医学系研究科放射線診断核医学)

大会ホームページ開設について..... 30

Sweden側事務局の開催報告..... 31
Rimma Axelsson(Karolinska University Hospital and Karolinska Institutet, Stockholm, Sweden)

2023年度活動報告および予定..... 32
対馬 義人(群馬大学大学院医学系研究科放射線診断核医学)

Facebook開設のお知らせ..... 33

特定非営利活動法人日本スκανジナピア放射線医学協会 定款..... 34

留学助成金公募のお知らせ..... 43

日本スκανジナピア放射線医学協会会報 No.36

目次

留学助成金取得者リスト	44
会員申込書	46
役員名簿	47
賛助会員名簿	48
事務局だより	49
連絡先	50

協会の歴史回想

本年度よりNPO法人としての歩みをスタートしたことをひとつの節目に、今号の会報誌では、「協会の歴史回想」というテーマを設けました。

はじめに、隈崎達夫先生がご執筆された随筆集・俳句集「沛然」より、協会発足時の歴史にまつわる一節を転載させていただきました。タイトルにもあります「都倉栄二様」は、文化庁長官として現職の都倉俊一氏のお父様だそうです。ご長男にあたる俊一氏は、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、ポップス歌謡曲の作曲・編曲者で、ピンクレディー他、数多くのヒット曲を手掛けた方です。また、隈崎先生より伺いました話では、都倉栄二様と、瓜二つのお顔をされていたらっしゃるそうです。

田島廣之先生からは、「Karolinska再訪」というタイトルでご寄稿いただきました。田島先生の長きにわたる当協会へのご貢献は皆さまご存じの通りです。先日の学会に参加された方々は皆感じられたと思いますが、わが国のまだまだ暗い印象のある病院とは異なり開放的で、患者本位の精神を感じられたと思います（そして職員にも優しい）。いつになったら日本は彼らに追いつけるのでしょうか。

最近では海外に留学する若手医師が診療科を問わず減少しているようです。海外で学ぶことは、単に旅行や学会などで滞在するのとは全く異なる経験です。その意義を伝えることはなかなか困難なのですが、留学して後悔したという話は聞いたことがありません。

協会の歴史や、そのバックグラウンドなどを皆様と共有できれば幸いです。

都倉栄二様のこと 隈崎達夫「沛然」より転載

除しなければ、日本はあんな惨めなことにはならなかつた筈だ。大杉事件だつて甘粕さんがひとりで責任を負つたのだよ。延々と続く都倉様の話を聞きしているうちに、滅亡を目前にした旧満州国の最後のきらめきと日本が描いた幻想の楽土が目に見えるようであつた。私も雑学的にいろいろな事に興味がある。こちらでも多少酒の力を借りて次々にお聞きした。「隈崎君はなぜそんなことまで知っているのかい」「戦後混乱期の教育を受けた者が大陸に抱く憧れのようなものかも知れません」「……うん……、隈崎君も良い人生を送っているね」「ありがとうございます。これからいろいろ教えて下さい」「何を言つてやがる、ハハハハ」。

三日後、最近出版したのだが、との悉え書きと一緒に一冊の本が贈られてきた。「外交官の決断」と題した硬表紙の本である。都倉様の回顧録の形をとってはいるが、そのような世界を越えた開戦前夜の歴史を感じさせる重厚な内容である。外交官をめざした頃のこと、旧満州国へひとりで旅立つた時のお気持ち、彼の地で奥様との出会い、甘粕大尉との運命的な出会い、物資の乏しい時に甘粕大尉の好意で挙げた思い出深い結婚式、旧満州国の理想とジレンマ、国際社会から孤立化に進む日本、そして戦後の華麗ともとれる外交官生活やスウェーデンに対する憧憬、これからの日本のあるべき姿、などなど人間都倉栄二様のなかにある全てが感じ取られて感銘を受けたのも思い出しに新しい。人ひとりの美学の凝縮とはこのようなものであろう。御礼の手紙とともに、無礼を省みず少々長い書評を送らせていただいたところ、すぐに達筆のお返事をいただいた。今でも大切に保管しているのは言うまでもない。

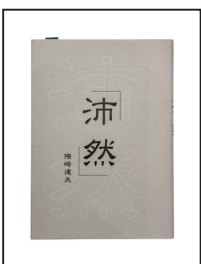


我々の協会が設立したファンドで協会各国に留学した若い留学生も随分増えた。日本からの留学生、スカンジナビア側からの留学生を総合するとすでに三十名を超えている。初期の頃に留学した人たちは、それぞ

れの研究施設や病院で重要な地位で活躍している。大学関連では今年山形大学放射線医学教室主任教授になられた細矢先生を始めとして助教、講師として研究や後進の指導にあたっている方も少なくない。スカンジナビア側にも指導的立場になった方々も数多い。また、七年前に立ち上げた学術集会は毎回盛大に発展し、来年五月にはオスロのLaarum教授のもとに開催される。来年は都倉様を是非ご招待し、医学とは離れた内容のご講演をお願いしようと思つて計画していた。このような協会の現況はできるだけ詳細にご報告を続けてきたが、ここまで立派にされるとは思つてもみながつたよ、とのお褒めをいただくのが常であつた。このお褒めの言葉をいただきましたくて、頑張つて来た部分がないではない。

病魔に勝てなかつたなどと言う言葉は当たらない。肺炎だつたかもしれないが、私は大往生として黄泉に発されたのだと信じている。お歳を召されてもかくしゃくとして、背筋をピンと伸ばしていつもダンディーないでたちであられた。英独露語を流暢に話され、日本と言う国を愛し、いつも温和でありながら日本の古武士を彷彿とさせる姿勢は、私のような戦後日本の端境期の教育を受けた者にとつて撞撃的であつた。お誕生日にバラをあしらつた生花をお送りした時にいただいたお電話の嬉しそうなお声も耳を離れない。二十分も話に花が咲いた。昨年暮れにお電話をいただいたが、それが私にとつて最後のお声であつた。「もし隈崎君が病院長になったら、僕を特別患者として診てよね」。ことによると病院長への内定をご存じだったのかも知れないが、敢えてお尋ねしなかつた。想い出はいつまでも尽きない。

(平成十二年九月)



都倉栄二様のこと

私たちの協会が発足以来顧問としてご指導を賜った都倉栄二様が七月四日逝去された。享年八十五歳。肺炎にて都内の病院にご入院とのことであった。協会はどれだけお世話になったか言い尽くせる言葉を探せない。

日本スカンジナビア放射線医学協会の発展は都倉様のご尽力なしには決してあり得なかった。現在の日本財団の母体である笹川財団がスカンジナビアとの友好交流に力を注ぐ計画があるという話を耳にし、全く面識もなく突然ご連絡させていただいたことを思い出す。十五年以上前のことであった。立派な会長室を訪れた若造をにこやかに迎えて下さった氏は、緊張してご挨拶しようとする僕を手招きするように予約されていたレストランへ連れて行って下さった。僕自身の来し方を興味深げにいろいろ尋ねながら、話がカロリンスカ病院に及ぶや、そこで臨床を学んでいた日本人がいたこと、それが僕自身であったことを知り大変驚愕されていた。奥様がカロリンスカ病院で胃癌の診断を受け、当時の私の直接の上司であるStenk先生が奥様の状況をご説明されたことを思い出されていた。食事しながら話が急速に進んだのは言うまでもない。当時都倉様はスウェーデン大使と同時にアイスランドの大使も務めておられたのである。

留学中にテルアビブで赤軍の乱射事件があった。私自身もひとりの日本人として大変つらい思いをしていたが、当時都倉様はイスラエル大使を務めておられ、私がヨーロッパ在住中であつたことを知って、本音で当時の苦労話をされていた。

話が佳境に入る頃、笹川財団では日本とスカンジナビア間の友好交流のために基金を設立し、その年から募集を始める予定であることを話され、私たちが立ち上げようとしている協会の趣旨に理解と賛同を示された都倉様は、ただちに応募しなさいとの指示を下された。小塚教授と相談し、大至急書類を作成し、財団事務所まで届けに出かけた。例年ない猛暑

の午後であり、暑さと緊張とで背中がぐっしり濡れていたことを昨日の午後にように想いだす。ほどなく電話をいただき、当時としては破格の助成金をつけていただいた。この基金があつてこそ我が協会は胸を張って船出が出来たのである。このことがあつて、いくつかの日本企業も理解を示し参画していただくことができ、今にいたる発展を見たのである。

当初の日本スカンジナビア放射線医学協会幹事会に都倉様はよく出席して下さいました。このような会の運営については全くの素人集団であることに呆れたような顔をしながらも、ひとつひとつ丁寧に指示を下された。当時の状況を勘案して、本部をオスロに置くようにとのお話と、かつての大使としてのご経験から具体的な本部設置についてご自身の人脈をご紹介いただいたことも大変ありがたいことであつた。小塚教授とはこの外気が合われたようであり、東京でお会いしたおりよく小塚教授のお話をされていた。私が教授職を拝命した時にはご自分のことのように喜んで下さり、ご息を交えて青山で食事を一緒にさせていただいたことも忘れられない。最後にお食事に誘っていただいたのは二年後であつた。お馴染みのレストランであつたらしく、とてもリラックスされ、日本酒を随分召し上がっていらつしやう。酒量はとても減つたんだよ、と言いながら楽しんで杯を重ねる都倉様に少しばかり心配したりしたが、協会がしっかり仕事をしていることに変わらぬお褒めの言葉と安堵のお気持ちを感じ返して述べただき恐縮した。お酒と美味しい料理に気を許されたのか、ご自分の若いころの話を盛んにされていた。興味深い内容ばかりであつた。

突然、と言うよりも唐突にと言う感じで甘粕大尉のお話が出たのにはびっくりした。「隈崎君は甘粕さんの名を知っているかい」「大杉栄事件ですか」「うん、知っているね」「……」「歴史とは難しいものだ。世間ではとやかく言うが、あの方は人物だつたよ」「……」「国家を思う気持ちは誰よりも強く、誰よりも純粋だつた」「……」「関東軍を抑えることができたのは甘粕さんだけだつた。東条がおかしなことを考え、最後に甘粕さんを排

Karolinska再訪

田島 廣之（埼玉医科大学国際医療センター 画像診断科 特任教授／日本医科大学 名誉教授）

会報32号2019年で私は、「2020年札幌（畠中正光教授）の後、2022年Stockholm（Rimma Axelsson教授）での学会開催がすでに決定しております。私は必ず競技場に行きます。皆様も是非学会へのご参加をお願い申し上げます。」と書かせていただいた。

その後、想定外の新型コロナ禍で学会どころではなくなりましたが、2023年5月-6月、ようやく久しぶりにStockholmでの国際学会に参加し、多くの会員にお会いすることができた。学会の詳細については他の方に譲るが、ここに再開できたことは大変喜ばしく、関係各位に心から感謝申し上げたい。

会場は私の留学先で、新装なったNya Karolinska Solna病院であった（図1）。学会の後に7代目のLennart Blomqvist 教授に案内していただいたが（図2）、現在進行形で再構築され、臨床と研究が有機的に結合した素晴らしい病院である事が理解できた。隣接する研究棟の一部は、私が所属していたThorax Klinikenの建物が当時のまま使われており（図3）、研究のための人間用・動物用のPET-MR装置が数台設置されていた。



図1: Nya Karolinska Solna 前景 今まだ再構築の最中であった。



図2: Lennart Blomqvist 教授 向かって右から2人目。日本医科大学からのメンバーと。



図3: Thorax Kliniken 当時そのままであった。中央に診療棟とのスカイウェイが見える。

恩師の一人であるHans Ringertz教授と再会できたのは光栄であった(図4)。2003年Paul LauterburとPeter MansfieldがMRIの開発でノーベル医学生理学賞を受賞したときの選考委員長でもある。Karolinska定年の後、Linköping大学とHarvard大学の教授を務められていた。私の定年後の近況をご報告したときに、“Enjoy your 2nd professor life!”と温かいメールをいただいたのは新型コロナ禍が始まった頃であったか。当時は、高齢なのでサマーハウスに籠っている、とのことであった。確か84歳であるが、大変お元気にされていた。



図4:Hans Ringertz教授 向かって1番右。Nobel Prize Museumの前にて。

留学当時の胸部放射線科Thorax Röntgenの主任はAlfred Szamosiで私の直接の指導者であったが、胸部単純側面像での大動脈弁の石灰化をいつも強調されていた。ちょうど大動脈弁狭窄症のバルン拡張術を開始した頃だったが、この手技はその後迂余曲折を経てTAVIへと繋がっていった。Bertil Svaneには実に多くのことを教えてもらった。術後肺捻転の読影のポイントについては、埼玉医科大学に異動したあと、同症例に当たった際に蘇ってきて大変役に立った。学会の最中には会場周囲や町中を散策する機会があったが、幾度となくそのような当時のことなどが思い出された。

協会の歴史回想、という大きいテーマを頂いたが、個人的な追憶になってしまった。留学時に培ったKarolinskaでの人脈は、協会の発展に些少でもお役に立ったのではないか。例えば、今回会長のRimma Axelssonは、家内の親友であるBrigitte Wilczekの直系の後輩にあたる。そのほかにも実に多くの方々に助けられたし、一方、お世話もさせていただいた。

新型コロナも未だ第9波とのことであるがいずれ終息すると思われる。様々な理由から留学希望者が減っている昨今ではあるが、人と人の交流を基盤とした研究こそが医学の発展に寄与すると考えており、今後の当協会の未来に期待するものである。

なお、競技場Stadionには無事行くことができた(図5)。Stockholm Olympicのマラソンの途中で失踪したことになった金栗四三は、ゴールまで「54年8ヶ月6日5時間32分20秒3」かかったとのことであるが、私にとっては2019年から4年かかっている、1年遅れの念願の成就であった。



図5:Stadionにて 丁度、Stockholm Marathonの当日であった。

案ずるより産むがやすし

平澤 裕美 (群馬大学医学部附属病院 放射線部)

コロナ感染拡大により学会等もみなオンラインが続いていた中、久しぶりに対面で学会が開催されると教授から医局員に話がありました。子育てに精一杯で学会発表等を全く行っていなかった私は、今回も子供達を置いていけないからと自分に言い訳をしてやり過ごそうかと思っていました。しかし子供達も19歳と14歳、父親がいれば1週間位過ごせる年齢であること、自らが行っていた臨床試験が完了したこともあり思い切って演題をだしてみました。しかし、よく考えたら海外に行くのは新婚旅行以来19年ぶりで、しかもスウェーデンは遠く、出発までの準備中にはやめておけばよかったかと何度も後悔しました。

学会は2023年5月30日から6月1日にかけて3日間行われました。

私は5月28日の夜、成田発の飛行機(ドバイ経由)で出発し22時間かけ5月29日にストックホルムに到着しました。5月30日の午前中に発表の予定だったため発表の練習や想定質問などについて予習をしないと落ち着かず、ホテル下のスーパーで食事を購入しホテルの部屋にこもりました。私事ですが世の中の変化についていけなくカードでの支払いが受け入れられず、日本では現金払いしかしてこなかったため、初めてのカードでのお買い物がスウェーデンのスーパーでの水とお弁当でした。実はスウェーデンでは現金が使えないことを出発の2日前に同僚に教えてもらい、即日発行してくれるクレジットカードを出発前日に作って出発という何とも綱渡り的な旅行でした。

発表は1日目の午前中であり、おかげ様で残りの学会日程は心安らかに過ごすことができました。英語での発表がこの年で初めてという恥ずかしい状況だったのですが、質問して下さった先生方もゆっくり話して下さり2/3は答えられ、少しですが自信がつかしました。何かに新たに挑戦するのは勇気があることですが、何歳になっても挑戦して新たな経験をえられることは素晴らしいことです。(写真1)

後は食事会やエクスカーション的なものが素晴らしかったことを紹介できればと思います。他の方も恐らく報告ししてくれと思いますのでかぶりませんが、そこは様々な視点からということでご容赦いただければと思います。

学会中お昼にはサーモンやチーズの乗ったサラダボールのようなものとパンと炭酸水というヘルシーな食事が提供されました。サラダというボリュームが少ない印象ですが、乗っているサーモン等は大きく、十分にお腹が満たされました。ちなみに、町のスーパー等にもこのサラダボールのような食事は必ず売っていて、日本にも同じようなものがあればダイエット中の食事に良いのに・・・と思いました。

1日目終了後、大学病院の横の道で集合と言われ待っていると水陸両用バスが2台来ました。水陸のドライブを楽しんだ後、スカンセン野外博物館でスウェーデンの踊りを見学、学会参加者も一緒に踊りを楽しみました。夕食はこの博物館内のレストランでしたが、ビュッフェ形式であったため食べたいものを食べたい量とれて安心でした。2日目は終了後、ノーベル博物館の前に集合し施設内を見学、お土産を購入、ミニコンサートもあり、楽しい時間を過ごせました。夕食は博物館内のカフェでいただきました。(写真2) イスの裏のノーベル賞受賞者のサインも写真にとれました。(写真3)



写真1



写真2



写真3

食事は1日目、2日目ともおいしく、また、ホテルの朝食もおいしくいただきました。基本的に野菜とタンパク質が多く炭水化物が少なめの食事で、チーズの種類が多く、どれもおいしく最高でした。(写真4)

また、6月であったため、昼の時間がとても長く、9時を過ぎても明るい街中は行動しやすかったです。(写真5) 気温もちょうどよく、どこまでも歩けそうな勢いで毎日20000歩近く歩いていました。また、ストックホルムはスウェーデンの首都ですが、人口密度が多くなく、歩いていても人とぶつかる心配もなく、過ごしやすかったです。病院内も日本と異なり、人が多く混雑していることはなく、完全に予約制であると聞きました。医療制度もかなり異なることを知り興味深かったです。(写真6)

スウェーデンではその場所でしか得られない経験が多くでき、素敵な時間を過ごすことができました。来年度 Progress in Radiology 2024が群馬県前橋市で開催予定です。自然豊かな群馬県でおもてなしの準備を沢山してお待ちしております。



写真4



写真5

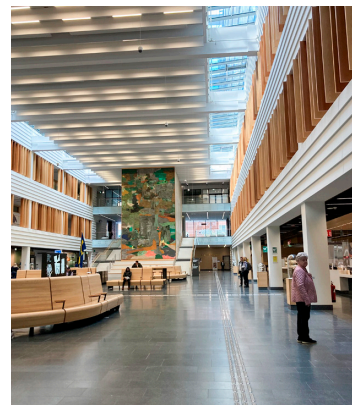


写真6

北欧の水の都 ストックホルム

石井 芳樹 (山形大学医学部放射線医学講座)

The 14th Symposium of the Japanese Scandinavian Radiological Society (SJRS) and the 17:th Nordic Japan Imaging Informatics Symposiumに参加しましたのでご報告いたします。北欧の文化、美しい街並み、そして我々の専門分野である放射線医学について新たな視点を得る大変有意義な体験でした。

今回、海外学会参加は初めてでしたので鹿戸教授に同行させていただきました。5月28日夜、羽田空港を出発して29日の早朝にヘルシンキ空港に到着しました。飛行機を乗り継いで、スウェーデンのアーランダ空港に着きました。空港から開催場所であるカロリンスカ研究所までリムジンバスが運行しており、それに乗りました。所要時間は45分ほどでした。空港で乗車券を購入しましたが、車内でクレジットカードでも精算できるようです。ロストバゲージやトラブルなく到着できてほっとしました。スウェーデンではCovid-19による規制はなく、マスクは誰もしていませんでした。空港でスウェディッシュクローネを両替しましたが、基本的にクレジットカードが使えたので少額だけでよしいかと思います。

カロリンスカ研究所はストックホルムの郊外と市街地のちょうど境界に位置しています。カロリンスカ研究所の大学病院は立派な建物で、大学の施設もステンドグラスのようなデザインが窓一面に散りばめられ、近代的美術館のような外観をしていました。近くにある関係機関もガラスをモチーフにした近代的なデザインで建設されており、北欧建築の伝統的な木を多用した作りも美しいですが、このような近代的デザインもまたスウェーデンらしいのかもしれません。ちょっとした近未来都市でしたが、なお住むとなると家賃が非常に高く問題になっているそうです(投資用マンションの様子)。



写真1

今回の宿泊先はElite Hotel Carolina Towerでカロリンスカ研究所附属大学病院の正面にありました(写真1)。スウェーデンらしい家具がお部屋の中にあいました。また、朝ご飯buffetがおいしくて毎朝お腹いっぱいになるまで食べてしまいました。29日は飛行機で疲れましたのでカロリンスカ研究所の周りを散歩して休みました。カロリンスカ研究所を1周すると1時間以上かかります。

昼食は鹿戸教授と他施設の先生方と大学病院内の食堂で食べましたが、バイキング形式で大学生協よりも美味しいです。30日より学会がありました。大学病院の正面玄関を進むと講義室があってそこが会場でした。大学病院のエントランスは開放的で薄暗い感じがなくて驚きました。コンビニやカフェテリア、アイスクリーム屋も揃っていました。セッション終了後のイベントは、水陸両用車で行く地上&水上

ツアーでした。ストックホルムの歴史的地区を水陸両用車で観光した後、そのバスがそのままバルト海へ突入しボートに様変わりして水上をスリングに進むツアーでした。ツアー中の楽しい実況ガイドつきでした(写真2)。その後、世界初の野外博物館のスカンセンに行きました。世界初の野外博物館には、スウェーデン全土から移築された160以上もの代表的な家屋や農園が点在しています。広大な園内には動物園や水族館、工房街やミュージアムショップもあり、大人も子供も楽しめるテーマパークだそうです。食事会があり、様々な施設の先生方と交流し、研究について活発な議論が交わされました。

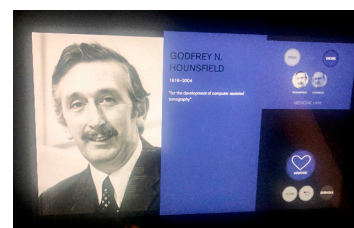


写真2

31日は閉館後にノーベル博物館を貸し切ったツアーと食事会がありました(写真3)。ノーベル賞受賞者に授与されるメダルをかたどったチョコレートが売店で販売されており、お土産に買いました。コンブチャという謎のドリンクが出てきて、紅茶キノコでした。なぜか欧米で再ブームになっているようでした。



写真3

6月1日は学会の最終日でした。午後はストックホルム市街地の観光にしました。ストックホルムの旧市街ガムラスタンに行きました。曲がりくねった細い路地が続き、まるで中世の街に迷い込んだかのような美しい街並みでした。ストックホルム王宮(写真4)を見学し、そのまま、国会議事堂を通り、ストックホルム中央駅まで行きました。



写真4

駅前にはデパートがあったのでおみやげを買いました。デパ地下のスーパーは野菜・果物や惣菜が量り売りしていました。野菜のサラダもバイキング形式で売っていました。野菜のバイキングでヘルシーな感じで日本にもあればと思いました。6月2日は朝食をいただいてすぐに空港へ向かい、帰路につきました。アランダ空港はあまり大きくない空港のようで、ショッピングに向いていませんので注意が必要です。

ストックホルムはとても絵になる街でした。「カモメ食堂」「魔女の宅急便」の世界そのままでした。王宮は王道なヨーロッパの宮殿です。そんな楽しかった思い出と北欧産のコロナウイルスを持ち込んで帰国することとなりました。

色々な演題がありましたが腹部、核医学の演題が多かったようです。[68Ga]FAPI-46 PET/CTと膀胱癌、前立腺の石灰化と癌の関連などがありました。特にradiomicsやchatGPT関連も話題になっていました。discussionは活発で大変勉強になり有意義な経験となりました。

June's JRSR Academic Symposium: Intellectual Delights in Beautiful Stockholm

Gu Wenchao (筑波大学 医学医療系 臨床医学域 放射線診断IVR科)

My name is Guwenchao, I'm currently working at the University of Tsukuba as a postdoctoral researcher. My research topic includes imaging analysis of radiomics deep learning and genomics analysis which includes RNA-seq, scRNA-seq, ATAC-seq, Chip-seq...

I have cultivated strong ties with the Japanese Scandinavian Radiological Society (JSRS) since my arrival in Japan (2014). This association was established through my esteemed mentor, Professor Yoshito Tsushima, who is also a respected member of JSRS. My journey with JSRS began when I was a master's student at Gunma University, attending the 11th Symposium of JSRS in Tokyo in 2016. Although the symposium was held in Shinjuku, it was my first-time hearing research presentations from the Scandinavia region. All were of high quality, presenting new imaging methods, state-of-the-art imaging diagnostics, and novel imaging biomarkers relevant for patient care.

The 12th JSRS Symposium was hosted in Bergen, Norway. Regrettably, I couldn't partake as I was only in my first year as a PhD student. However, in 2019, the world was grappling with the COVID-19 pandemic. Consequently, the 13th JSRS Symposium, initially scheduled for 2020, was postponed to 2021 and ultimately took place in a virtual format through Zoom webinars. I had the privilege of participating in this symposium and presenting my PhD project focused on "Bevacizumab Radioimmunotherapy in triple-negative breast cancer xenograft" .

In 2023, as the world began emerging from the pandemic's shadows, the 14th JSRS Symposium was hosted in one of the most captivating cities globally, Stockholm, Sweden. Stockholm is renowned for its exquisite beauty and is nestled amidst picturesque landscapes. Arriving in Stockholm was a bit of an ordeal for me since I am not Japanese and needed a visa to enter Sweden. Fortunately, my visa was approved just three days before my flight's departure. As I embarked on my first journey to Europe, I must admit I had limited knowledge of Sweden and Stockholm. My primary association with the city was through the legendary soccer star, Ibrahimovic, who hails from Stockholm.

My journey began on the night of May 28th, arriving in Helsinki in the early morning of May 29th. From there, I transferred to Stockholm via a one-hour flight. Memorable trips often come with their challenges. Upon arriving at Stockholm's airport, I learned that the express transportation to the city was under maintenance, pushing most passengers towards buses. Long queues formed as everyone waited patiently. I reached my hotel around 12:30 PM, conveniently located near Karolinska University Hospital. My first meal in Stockholm was a simple lunch at the hospital's restaurant. I also reunited with an old friend, Risky, who had studied for his master's at Gunma University. He kindly showed me around the University of Karolinska. Later, I visited the Radiology and Nuclear Medicine Department at Karolinska Hospital, which was commendably well-organized, ensuring patient

comfort during examinations.

The conference began on May 30th. The Welcome speech was delivered by Prof. Rimma Axelsson, representing the National Societies. He introduced the history of the JSRS. I presented my research on the "Delay phase of 18F-FDG PET radiomics signature based on machine learning for predicting muscle invasion in bladder cancer." My

collaborator, Dr. Kim, also presented his work on the "Modified Lugano classification of FDG-PET imaging for response assessment in locally advanced unresectable or recurrent/metastatic oral squamous cell carcinoma." It was a particularly special day as Stockholm was said to be at its best during this season. The bright sunshine was a delightful surprise, and during lunch breaks at the hospital, it seemed like almost everyone took the opportunity to bask in the sun outdoors. After concluding the conference sessions in the afternoon, the organizers arranged a delightful excursion for all attendees. We boarded a two-way bus, which took us on a guided tour of the city. We even had the chance to cruise into a river and witness the majestic ships that epitomized Stockholm's maritime history. Our next stop was the Skansen open-air museum, showcasing the whole of Sweden with houses and farmsteads from every part of the country. The staff introduced us to the traditional dances of Stockholm. The evening culminated in a delightful dinner shared among all the conference participants.



Figure 1 Karolinska Institute

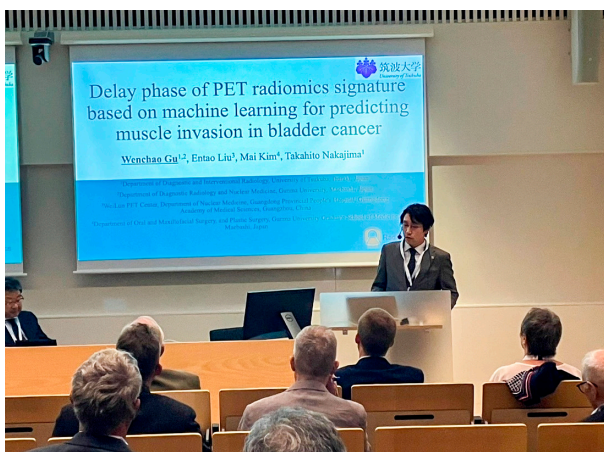


Figure 2 During my presentation.



Figure 3 Dinner at Skansen open-air museum with Gunma university colleges (around 7:00 pm, although it's nighttime, it's still bright)

The following day was brimming with insightful presentations from a diverse group of European and Japanese speakers. Professor Tsushima, who has been both my mentor and an esteemed member of the JSRS, delivered an honorary lecture titled, "Safe and Comfortable Radiology Examination." In the afternoon, we were privileged to attend a remarkable dinner event at the Nobel Prize Museum. At this illustrious establishment, we were led by well-informed staff who offered detailed explanations and insights into the exhibits. Meandering through the hallowed halls, we were reminded of the vast legacies left behind by some of the most innovative and brilliant minds humanity has ever produced. The museum not only stands as a tribute to their individual accomplishments but also acts as a shining beacon, underscoring the endless possibilities that human creativity and determination can achieve.

On the final day of the conference, our schedule was packed with approximately seven insightful lectures spanning from morning till afternoon. As the day's events began to wind down, prof. Yoshito Tsushima ascended to the podium, delivering a poignant closing speech. He also shared details about the preparations underway for the much-anticipated 15th JSRS Symposium, scheduled to take place in Gunma. Eager to make the most of my remaining hours in Stockholm, I headed to the Karolinska Huddinge campus for an immersive tour of the Exosome Research Department's laboratory. The sheer size of the lab was striking, and what left an indelible mark on me was the meticulous arrangement of every piece of cutting-edge equipment. It was a vivid testament to the institution's unwavering commitment to pioneering research.



Figure 4 final group photo.

As the sun began to rise on my final day, I woke up early to take a leisurely stroll around the city. This serene experience allowed me to fully appreciate the tranquility and beauty that Stockholm had to offer. In the afternoon, I made my way to the airport, concluding my remarkable journey in this captivating city. My time in Stockholm was a perfect blend of scientific exploration, cultural

immersion, and the appreciation of its natural and architectural wonders. During this academic trip to Stockholm, Sweden, I found myself deeply invigorated, not just by the enlightening discussions and insights from the conference, but also by the captivating charm of Stockholm in June. The city, bathed in the gentle glow of the summer sun, offered long days and a vibrant atmosphere. Streets were lined with cafes bustling with locals and visitors alike, all enjoying the famed Swedish 'fika' – a coffee break centered more on socializing than merely drinking coffee. The historic Gamla Stan, with its cobbled streets and medieval architecture, spoke of centuries past, while the modern districts showcased Sweden's cutting-edge design and innovation. The pristine waterways and green spaces provided a refreshing escape from the rigorous academic sessions. Engaging with Stockholm's rich culture and environment in such splendid weather truly enhanced my entire conference experience. I am taking back not only valuable academic insights but also memories of a city that beautifully intertwines its past and present. As this was my first trip to Europe, I ventured a little further, exploring more of its charm, hoping it will spark new ideas for future research. I would also like to extend my gratitude to the private foundation, Kato Memorial Bioscience Foundation, for supporting me for this scientific journey.

The Japanese Scandinavian Radiological Society has during this conference confirmed its role as a highly relevant society for the radiological community, promoting scientific and cultural interaction between Japanese and the Nordic radiologists. This society provides unique opportunities for collaboration that may be further boosted in 2024 which will be held in Gunma. I am also preparation member for the next conference. I hope to see many supporters of JSRS again in Gunma in 2024!

二度目の北欧へ

関 優子 (群馬大学医学部附属病院 放射線部)

The 14th Symposium of the Japanese Scandinavian Radiological Society and 17th Nordic Japan Imaging Informatics Symposium in Stockholm, Swedenに参加しましたので、ご報告させていただきます。

スウェーデンと聞いて思い浮かべるのは、やはりノーベル賞?それともIKEAでしょうか。群馬にIKEAができると言われ早数年。未だに、開店していません。北欧=おしゃれな国であり、雑貨や家具などかわいい物が多い印象です。2018年に参加したBergenのきれいな街並みが思い出されます。

COVID19の影響で延期され、Web開催となった2021年の前回大会。ようやく世の中が落ち着き、世界へ飛び立てる世の中が戻ってきました。

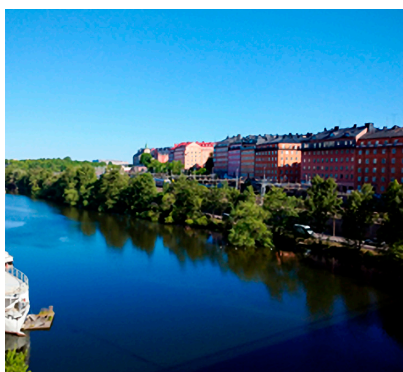
- 5月 28日 夜便で出国 ドバイ経由
- 29日 昼過ぎ 現地へ到着
- 30日 学会参加、スカンセン野外博物館でダンス
- 31日 口述発表、夜はノーベル博物館でディナー
- 6月 1日 昼まで学会
- 2日 午後便でドバイ経由
- 3日 夕方 帰国



今回は、機中泊含めて一週間という長旅でした。日曜日の昼過ぎに群馬を出発し、成田空港へ向かいました。北欧はクレジットカード社会ですが、念のため両替も行いました。職場ではマスク社会の毎日を過ごしていますが、ここからはノーマスクの世界の始まりです。夜便ということもあるのかもしれませんが、成田空港は空いていました。お店も閉まっているところが多く、日本での最後の食事はホットドッグとなりました。

早朝のドバイ空港は、時間が分からなくなるくらい人も多く賑わっていました。ストックホルムに向け、さらに7時間の空の旅。ストックホルムに到着しただけで、今回の学会のほとんどをやりきったのではないかというくらいの達成感でした。アーランダエクスプレスが止まっているとの情報もあり、空港からはみんなでタクシーにしました。

カロリンスカ大学病院までは徒歩圏内くらいのコネクトシティホテルへ4泊しました。筑波大学の中島教授、Gu先生、スウェーデン在住の鈴木先生と夕食をご一緒させていただきました。スウェーデンの病院事情などのお話も聞くことができ、楽しい時間となりました。スウェーデン滞在中は毎日お天気もよく、過ごしやすい日々でしたが、こんなにお天気が良い日が続くことはあまりないそうです。夕飯から帰ってきたら、自分の部屋の電気がまったくつかないという事態に… つたない英語でフロントへ訴え、暗闇の中荷物をまとめて大移動しました。



事前の案内が簡素すぎて、カロリンスカ大学病院へ行ったところで会場がわかるか心配でしたが、病院に入ると、日本の病院らしさはなくなんだかおしゃれでした。そして、患者さんがあまりいません。学会初日は、核医学、情報系のセッションがあり平澤先生、金先生の発表がありました。お昼は、みんなでサラダボックスを持って外で食べました。お天気もよく、過ごしやすかったです。

学会終了後は、みんなで水陸両用バスに乗ってスカンセン野外博物館まで移動しました。バスの待合がここでよいのか?? みんなでザワつく中、シャークバスが登場しました。2台に分かれて、いざ出発。私達の乗ったバスのガイドさんはハイテンションで、大音量の音楽とともに街中を走るバスは少し特殊だったかもしれません。バス?船から?眺める風景は、一段と素敵に見えました。



野外博物館では、スウェーデンの伝統的なダンスを踊り、汗だくになりましたが楽しい思い出です。帰りはSLアプリを使って、トラムでホテルまで戻ってきました。

学会二日目は、対馬教授のレクチャーから始まりました。IVR、腹部、最新のテーマとしてフォトカウンティングCTや4D MRI、人工知能の演題がありました。自分は、「造影CT検査を受けた多発性骨髄腫患者における造影後急性腎機能障害の発生」を発表しました。竹内くん、熊坂先生の発表もありました。



夜は、ノーベル博物館でのディナーでした。レントゲン博士やハンスフィールド博士も展示もありました。ノーベル博物館では、噂のメダルチョコをお土産に購入しました。

学会最終日は乳腺のセッションでした。佐藤くんの発表もありましたが、ポスター発表に変更になった演題があり時間がたくさんあるから? ディスカッションが活発でした。

午後は、ストックホルム市内へ。本場のIKEAに行き、ガムラスタンでおしゃれな雑貨屋さん巡りをしました。夕食には、スウェーデンの伝統料理であるミートボールを食べました。酸味のあるソースとお肉がよく合って美味しかったです。



最終日は、ホテル周辺のスーパーに買い物へ行きました。スポンジワイプやおすすめの塩を購入しました。帰りは空港バスを利用しました。バス停で待っていたら、空港行きはあっちだと言われ走って移動しました。空港内での最後の

食事はサーモンのテリヤキ丼。保安検査場が大渋滞で、ヒヤヒヤしましたが無事出国できました。帰日もドバイ経由で長時間移動ののち帰国しました。

現在、2024年開催の準備をすすめています。群馬には海はありませんが、温泉が沢山あります。石段街の有名な伊香保温泉、千と千尋の神隠しのモデルとなった積善館のある四万温泉など。学会最終日のあとには、エクスカーションとし日本三名泉のひとつとされる草津温泉を予定しています。硫黄の香る温泉街の散策や湯もみを体験してみませんか？

また、学会開催場所として国の重要文化財である臨江閣を予定しています。明治時代のレトロな雰囲気を感じながら、学会を楽しんでいただければと思います。



伊香保温泉の石段街



千と千尋の神隠し?!@四万温泉



湯もみ

初めての北欧へ

佐藤 有将 (群馬大学医学部附属病院 放射線部)

1. 大会の概要

2023年5月30日～6月1日の3日間にわたってスウェーデンのストックホルムでThe 14th Symposium of the Japanese Scandinavian Radiological Society and 17th Nordic Japan Imaging Informatics Symposium in Stockholm, Swedenが開催された。本大会は北欧4か国(ノルウェー, スウェーデン, フィンランド, デンマーク)と日本を開催地として隔年開催されてきた。前回大会はCOVID19のパンデミックによりオンライン開催となったが、本大会から再び現地で対面開催された。私は今回が初の大会参加で、「Clinical value of maximum intensity projection (MIP) images created from contrast-enhanced CT in breast cancer detection」といった演題名で口述発表したので報告する。

2. 行程

本大会へは下記日程での参加となった。移動日を含めると1週間の長旅となった。

5月28日	22:30成田空港発 ドバイ経由でストックホルムへ
29日	13:45ストックホルム着 ホテル移動
30日	学会1日目:学会参加&市内バスツアー・スカンセン野外博物館ツアー
31日	学会2日目:学会参加&ノーベル博物館ディナー
6月 1日	学会3日目:学会参加(口述発表) &市内観光
2日	15:25ストックホルム発 ドバイ経由で日本へ
3日	17:35成田空港着

日本からストックホルムへの直通便はなく、成田空港からドバイを経由するエミレーツ航空の便を利用した。空港からホテルまでの移動には鉄道が運休していたため、タクシーを利用した。宿泊先には会場であるカロリンスカ大学病院まで徒歩15分のコネクトシティホテルを利用した。日本とスウェーデンは7時間の時差があるが、夜発の便だったこともあり機内で十分な睡眠がとれたため、時差をほとんど感じることなく現地での活動を開始できた。天候にも恵まれ全日程を快晴の元過ごすことができた。気温は日本に比べるとやや低かったが、日中は非常に過ごしやすく、夜は少し肌寒い程度であった。この時期のスウェーデンは日照時間がとても長く、夜の9時頃まで外が明るく、朝の3時頃には日が昇り始めていたのも印象に残る。

2.1 学会1日目

会場のカロリンスカ大学病院までは徒歩で向かった。青空の元、北欧らしい風情ある街並みを眺めながらの移動はとても気持ちよかった。ストックホルムは車の交通網が発達していたが、同時に自転車や電動キックボードを通勤に利用している姿も多く見られた。また、ペットを連れて歩く人が多かったのも印象に残る。会場に着くとそこは日本でイメージする病院とは異なり、明るくモダンな雰囲気でおしゃれなオフィスを思わせる造りをしていて、患者数も少なく穏やかな空気が漂っており病院からも北欧らしさが垣間見えた。

初日は核医学と医療情報のセッションがあり、当院からは平澤先生と金先生が発表した。一般演題は日本の先生と北欧の先生のダブル座長で取り仕切られ、質疑応答を含め終始和やかな雰囲気で行われた。セッションの間には30分の長めなコーヒーブレイクが設けられており、美味しいコーヒーと現地のお茶菓子、サンドイッチなどを口にしながら交

流が深められていた。ランチブレイクにはサラダボウルが用意されており、みんなで病院職員に交わりながら屋外のベンチに腰掛けながら食べたのは新鮮な経験だった。

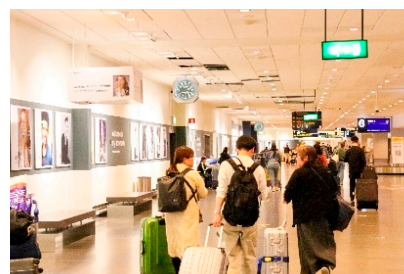
学会終了後は、水陸両用バスによる市内観光ツアーとスカンセン野外博物館ツアーが組まれていた。水上から眺めるストックホルムの街並みは絶景だった。スカンセンではスウェーデンの伝統的なダンスを体験した。夕食には館内のレストランでのビュッフェが用意されており、スウェーデン料理を堪能した。食事後は現地解散となり、路面電車を利用してホテルまで戻った。料金は一回の利用で500円ほどだった。



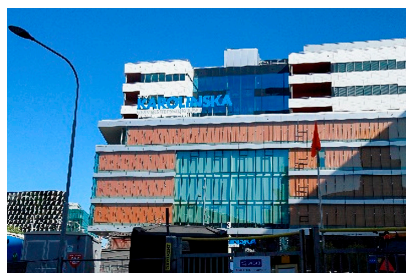
搭乗した飛行機



ドバイ空港



ストックホルム空港



カロリンスカ大学



水陸両用バス



スカンセン

2.2 学会2日目

学会2日目は対馬教授の教育講演からスタートし、血管造影や造影剤、最新のトピックであるフロンティアCTや4D flow MRIなどの演題があった。当院からは熊坂先生、関さん、竹内さんが口述発表した。お昼は病院スタッフも多く利用する食堂で食事した。

夜はノーベル博物館を貸し切った館内ツアーとディナーが用意されていた。館内にはレントゲン博士のブースもあり、X線管球の展示を目にすることができた。ディナーで使用されたカフェの椅子には、過去のノーベル賞受賞者の直筆サインが書かれており、そこに座りながらの食事は現地でしか味わえないものだった。



ストックホルム市内



ノーベル博物館



群馬大学参加者の集合写真

2.3 学会3日目

学会3日目は自身の演題を発表した。内容は胸部造影CTから乳房領域のみを抜き出しMIP処理した画像の乳がん検出における有用性を評価したものである。前の演者がポスター発表だったこともあり、多くの時間を私の演題に割いてもらい、たくさんの質問やコメントをもらえ有意義な議論ができた。

午後の空き時間にはストックホルム市内を観光した。本場のIKEAや雑貨屋さんを巡りたくさんのお土産を購入した。夕食はスウェーデンの伝統的な料理を提供するレストランでの食事会に招待いただき、筑波大学の先生方と食事した。食べ応えたっぷりのミートボールや新鮮な魚介料理はどれも絶品だった。



発表風景



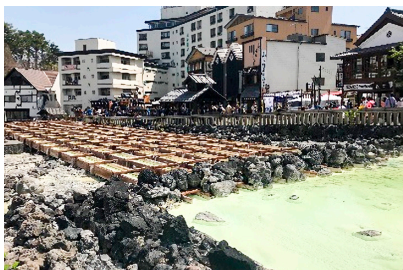
市内のお土産店



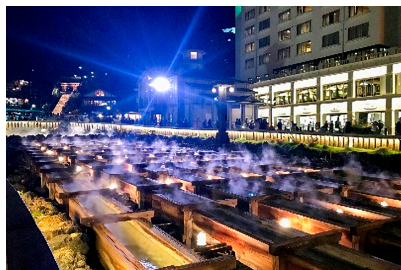
名物ミートボール

3. 次回大会

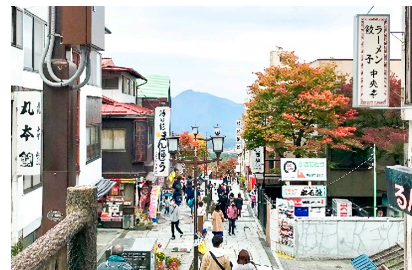
2024年度大会は群馬県での開催が予定されている。群馬県は利根川や赤城山、榛名山などの山々を有する自然豊かな土地である。会場には国の重要文化財に指定されている臨江閣が予定されている。臨江閣は明治時代に迎賓館として建てられ、100年以上の歴史を持つ趣ある建築物である。近隣には草津温泉や伊香保温泉、四万温泉などの観光地もあり、温泉街での観光も楽しむことができる。学会終了後には草津温泉を巡るツアーも企画中であり、ぜひ来年度大会にご参加いただき、群馬県の豊かな自然と名湯を満喫してもらいたい。



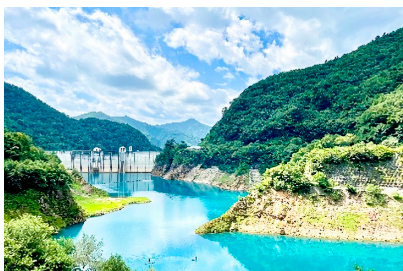
草津温泉湯畑



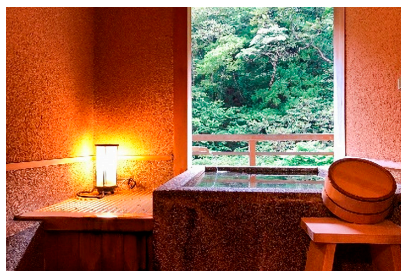
草津温泉夜の湯畑



伊香保石段街



奥四万湖



四万温泉



名物水沢うどん



会場予定地の臨江閣

4. 謝辞

最後に、今回発表の機会を与えてくださいました須藤技師長を始めとする群馬大学医学部附属病院放射線部の皆様、研究のご指導ご鞭撻を賜りました対馬教授、高橋先生、熊坂先生に心より感謝申し上げます。

初めての国際学会口述発表

竹内 友一（群馬大学医学部附属病院 放射線部）

The 14th Symposium of the Japanese Scandinavian Radiological Society and 17th Nordic Japan Imaging Informatics Symposium in Stockholm, Swedenに参加しましたので、ご報告致します。

スウェーデンのことはほとんど何も知らず、初めて行く国だったので、今回一緒に参加した関さんと佐藤さんから事前にいろいろと情報を聞き、予備知識を入れて行きました。北欧がおしゃれな場所であることをなんとなく知り、またCOVID19の影響で数年ぶりの海外への渡航ということもあり、学会に向けて準備をするのがとても楽しみでした。

- 5月28日 夜便で出国 ドバイ経由
- 29日 昼過ぎ 現地へ到着
- 30日 学会参加、スカンセン野外博物館でダンス
- 31日 口述発表、夜はノーベル博物館でディナー
- 6月 1日 昼まで学会
- 2日 午後便でドバイ経由
- 3日 夕方 帰国

今回は、機中泊もあり1週間の長旅でした。数年ぶりに飛行機に乗るのが楽しみで、成田空港に到着するだけで気分が上がりました。今回、スウェーデンに行くのには、ドバイ経由の便を使いました。ドバイでは空港から出ることはなかったですが、初めてのドバイは目に入るものがすべて派手で、豪華な国であるドバイを少しだけ感じることが出来ました。また久しぶりに海外に来たという高揚感から、10時間以上の移動の後でも、体の疲れより楽しさの方が大きかったです。

ドバイからさらに7時間かけてストックホルムに到着しました。空港から宿泊するホテルに向かうのに、電車が動いていない情報を関さんが入手していたため、タクシーを使いました。ホテルの近くまで来ると北欧のきれいな街並みを見ることができ、とても気分が上がりました。



ストックホルムのきれいな街並み

学会会場のカロリンスカ大学病院から徒歩30分程度の位置にあるコネクトシティホテルに4泊しました。ホテルに到着し、荷物を置いた後は、筑波大学の中島教授、Gu先生、スウェーデン在住の鈴木先生と夕食をご一緒させて頂きました。予約して頂いていたレストランに行く前に近くにあったコンビニに寄りました。スウェーデンにはどんなお菓子やアイスが置いてあるのかを見ました。同時に物価の高さを強く感じたのも印象に残っています。レストランではイタリアン料理をたくさん堪能し、現地の食材を使ったピザはどれもおいしかったです。またスウェーデンで初めての白夜を経験し、夜の8時を過ぎても昼間のように明るいことに戸惑いました。

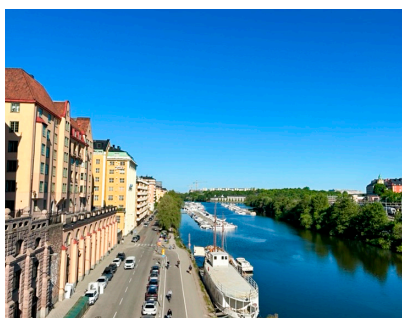


寄り道したコンビニ



レストランで食べたピザ

学会初日は、カロリンスカ大学病院まで景色を楽しみながら徒歩で向かいました。カロリンスカ大学病院は入口すぐの患者さんの待合いは、吹き抜けでとても広く感じ、またきれいな内装で、日本の病院とは違う雰囲気でした。初日は、核医学、情報系のセッションがあり、平澤先生、金先生の発表がありました。学会のセッション間には、Coffee Breakの時間があり、現地のお菓子屋やサンドイッチなどの軽食に、コーヒーなどが会場の外に用意されており、皆で小休憩をとるような時間が設けられていました。



ホテルから学会会場に向かう道中の景色



Coffee breakの様子

1日目の終了後は、大学病院の近くに水陸両用バスが来て、湖を經由してスカンセン野外博物館まで移動しました。バスのガイドさんは、ストックホルムの歴史を説明しながら市内の建物の説明をしてくださり、ストックホルムの歴史とともに街並みを楽しむことが出来ました。湖に到着し、水陸両用バスでそのまま湖に入水するのは一つのアトラクションの様で、また湖から眺める街並みはさらにきれいで、ただ景色を眺めるだけで楽しむことが出来ました。スカンセン野外博物館では、スウェーデンの伝統的な踊りを見学したり踊ったり、自然あふれる博物館を堪能しました。



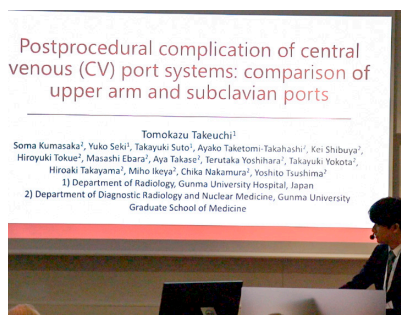
湖から見たストックホルムの街並み



スウェーデンの伝統的な踊り

学会二日目は、IVR、腹部、最新技術といったセッションがありました。自分は、「CVポート留置術の合併症について-上腕と鎖骨下アプローチの比較-」を発表しました。またこの日は関さんと熊坂先生の発表もありました。

初めての国際学会における口述発表だったのでとても緊張しましたが、多くの質問を頂き充実したディスカッションとなりました。アットホームな雰囲気英語に慣れていない人にも優しく質問しているのが伝わり、初めての国際発表に最適な学会と感じました。今回、充実した発表をすることが出来たので、とても良い経験をすることが出来ました。



自身の口述発表の様子

2日目の夜は、ノーベル博物館でディナーを頂きました。ノーベル博物館には、ノーベル賞の歴史に関する展示や、過去の受賞者の研究に関する展示物など、興味深いものが多くありました。



ノーベル博物館の展示物



ノーベル博物館でのディナーの様子

学会最終日は、最新技術に関するセッションで、佐藤さんの発表がありました。佐藤さんの発表においても、多くの質問が来ており活発なディスカッションが行われていました。

学会終了後の午後は、ストックホルム市内を巡りました。現地のおしゃれな街並みを歩き、おしゃれな雑貨屋さんを見て回り、お土産を買いました。夕食には、スウェーデンの伝統料理のミートボールや現地のシュリンプを頂きました。どの料理もおいしく、スウェーデン料理を堪能することが出来ました。



おしゃれな街並み



おしゃれな雑貨屋



スウェーデンのミートボール

現在は、2024年に群馬で開催される当学会の準備を進めております。群馬には、山、高原、湿原、河川など豊かな自然にあふれています。また日本を代表する温泉大国であり、草津、伊香保、水上、四万、万座の五大温泉があります。このうちの草津温泉には、学会最終日の後にエクスカーションとしてご案内することを予定しています。さらに学会会場としては、国の重要文化財の臨江閣を予定しており、昔ながらの日本の文化を感じられる雰囲気の中、学会を楽しんでいただければと思います。



臨江閣の外観



レトロな雰囲気のある臨江閣の部屋

Progress in Radiology 2024 開催のご案内



第15回日本北欧国際放射線医学シンポジウム Progress in Radiology 2024

大会長 対馬 義人

長い歴史のある協会のシンポジウムをこの度、群馬県にて開催する運びとなり、大変光榮に存じます。

群馬県前橋市は、東京から約100km北に位置しております。都心からのアクセスが良く、海外からお越し頂く方にとっては、京都・奈良へも足を延ばして、日本を満喫していただけることと思います。

学会会場は、前橋市の迎賓館「臨江閣」で行います。会場は、近代和風の木造建築で、本館・別館・茶室から成る、国指定の重要文化財です。明治17年に建築され、歴史の趣を感じられる建物です。

また、学会終了後には、エクスカージョンとして、皆様を草津温泉へご案内したいと考えております。自噴湧出力日本一を誇る温泉は、私たちが自信を持ってお勧めします。是非、ご家族でご参加ください。

多くの皆様のご参加、演題のご応募を心よりお待ちしております。

大会ホームページ開設について

大会ホームページ (<https://klar.co.jp/jsrs2024/e/>) を開設いたしました。

The screenshot shows the homepage for the 'Progress in Radiology 2024' symposium. The main banner includes the following information:

- Title:** Progress in Radiology 2024
- Subtitle:** 15th Symposium of the Japanese Scandinavian Radiological Society & 18th Nordic Japan Imaging Informatics Symposium
- Theme:** Different World, Different View
- Date:** June 18 · 19 · 20, 2024
- Place:** The Rinkokaku in Maebashi City, Gunma Prefecture
- Congress Chair:** Yoshito Tsushima, M.D., Ph.D. (Professor, Department of Diagnostic Radiology and Nuclear Medicine, Gunma University)

Additional details on the page include:

- A navigation menu on the left with links: HOME, WELCOME MESSAGE, GENERAL INFORMATION, PROGRAM, REGISTRATION, CALL FOR ABSTRACTS, HISTORY, ACCESS, and Japanes.
- A 'Poster (PDF)' link below a thumbnail image of the event poster.
- A 'News' section with a date '2023/07/27' and the text 'Web site is now open!'.
- Contact information for the Japanese Scandinavian Radiology Society office and JSRS2024 office (klar, Inc.) at the bottom.
- A QR code at the bottom center of the page.

Sweden側事務局の開催報告

Dear community, colleagues, “old” and “new” friends,
Time flies and our meeting a month ago became history.

This May in Stockholm offered a peaceful sky, sunny and warm weather, which obviously sweetened the atmosphere around our reunion.

Our Symposium gathered 58 delegates from Japan and Nordic countries. Three honorary lectures and 36 presentations were followed by interesting discussions in the lecture hall and during coffee breaks. Several delegates also visited CMIV in Linköping.

We took advantage of the fantastic opportunity to meet, exchange ideas and forge new collaborations. Both the comprehensive scientific program and the enjoyable social activities will stay for a long time in our memories. We will never forget our first ride with Ocean buss, folk dancing at Skansen and captivating play by young Ukrainian musicians at Nobel Prize Museum.

The organizing committee put tremendous efforts to make sure that our meeting would go smoothly and leave only positive impressions. Now, we will take a well-deserved summer vacation and hope to meet you again during our next meeting in Gunma in June 2024.

Thank you all for coming and making the 14th Japanese-Scandinavian Radiological Symposium a successful event in the line of other unforgettable meetings in the history of our society.

On behalf of Organization committee
President of the 14-th JSR Symposium

professor Rimma Axelsson

Karolinska University Hospital and
Karolinska Institutet, Stockholm, Sweden

2023年度活動報告および予定

対馬 義人（群馬大学大学院医学系研究科放射線診断核医学）

<NPO 活動>

当協会は、2023年3月15日付けで特定非営利活動法人NPOの認証を受け、本年度より活動がスタートしました。

<第38回日本支部理事会> 2023年4月14日、於：パシフィコ横浜会議センター

日本支部理事会は例年、日本医学放射線学会総会の会期中に合わせて開催しておりましたが、2020年度以降はコロナ禍の為、現地開催を見合わせメール会議としていました。世情が落ち着きを取り戻し、行動制限なく往来できるようになった為、今年度は、3年振りに対面で開催しました。次回の日本側のシンポジウムを山形大学医学部放射線診断科教授 鹿戸将史先生にお願いすることとしました。

<第1回定期総会> 2023年5月31日

NPO 設立後初となる第1回定期総会は、書面による審議を行いました。（会員の皆様にご提供いただきましたメールアドレスを活用しました。）

<留学助成金申請>

2023年度の留学助成金については、現時点での申請者はおりません。

<第14回日本北欧国際放射線シンポジウム> Progress in Radiology 2023

Rimma Axelsson 教授（Sweden）を大会長として2023年5月30日～6日1日にストックホルムで開催されました。日本と北欧諸国から合わせて58名が参加し、3名の方にご講演を賜り、口演発表数は36でした。

<第15回日本北欧国際放射線シンポジウム> Progress in Radiology 2024

来年度は、群馬大学が大会運営を務めさせていただきます。2024年6月18日～20日の3日間、群馬県前橋市の臨江閣におきまして開催する運びとなりました。研究成果発表ならびに、教育的なプログラムを盛り込み、充実した内容となっております。

また、日本医学放射線学会の専門医参加単位の認定を受けました（学会認定参加単位：2、日本専門医機構認定参加単位：1、日本専門医機構認定領域講習単位：1）。

国内外よりご来場の皆様楽しんでいただければ、スタッフ一同心を込めておもてなしさせていただきます。豊かな自然と、日本一の自噴湧出量を誇る草津温泉で心身が癒されるのを体感しに、是非群馬にお越しください。

尚、シンポジウムに関する詳細情報については、大会ホームページ（<https://klar.co.jp/jsrs2024/e/>）等でご案内申し上げます。

多くの皆様のご参加、演題のご応募を心よりお待ちしております。

Facebook開設のお知らせ

日本スカンジナビア放射線医学協会公式Facebook (<https://www.facebook.com/JapaneseScandinavian>) を開設いたしました。



日本スカンジナビア放射線医学協会/Japanese Scandinavian Radiologic Society
12件の「いいね!」・フォロワー14人

自己紹介
日本と北欧諸国との交流を通して放射線医学の進歩・発展を目指し、1986年に発足しました。2023年には、日本支部を特定非営利活動法人(NPO)とし、活動しています。

ページ・放射線科医
前橋市 (Japan・群馬県)群馬県 前橋市 昭和町 3丁目39-22
jsrs@jsrs.tokyo
jsrs.tokyo
まだ評価はありません(レビュー0件)

写真 [すべての写真を見る](#)

日本スカンジナビア放射線医学協会/Japanese Scandinavian Radiologic Society
8月1日
Progress in Radiology 2024 website is now available!

Progress in Radiology 2024
KLAR.CO.JP
Progress in Radiologyは2024年6月18日(火)～20日(木)に群馬県の臨江閣にて開催されます。

日本スカンジナビア放射線医学協会/Japanese Scandinavian Radiologic Society
7月13日
～For Progress in Radiology 2024～
The Progress in Radiology 2024 Organization Committee met to discuss preparation for the Maebashi Conference to be held in 2024.



特定非営利活動法人日本スカンジナビア放射線医学協会 定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人日本スカンジナビア放射線医学協会と称する。

(事務所)

第2条 この法人は、事務所を群馬県前橋市昭和町三丁目39番22に置く。

(目的)

第3条 この法人は、日本とスカンジナビアの放射線科医と友好と連絡を図り、放射線医学に関する交流、進歩を目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (3) 国際協力の活動
- (4) 科学技術の振興を図る活動
- (5) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

(事業)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行う。

- (1) 特定非営利活動に係る事業
 - ① 学術集会、日本北欧合同シンポジウム等の開催事業
 - ② 関係各国の放射線医学の研究発表の交換、情報交換事業
 - ③ 関係各国の放射線医学の人事交流（留学）等事業
 - ④ その他本会の趣旨に沿う必要な事業

2 その他の事業から生じた利益は、特定非営利活動に係る事業のために使用するものとする。

第2章 会員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同し、日本及びスカンジナビア諸国の放射線医学に携わる医師及び理事会での推薦を受けた個人及び団体
- (2) 賛助会員 この法人の目的に賛同し、この法人の活動を援助する個人及び団体

(入会)

第7条 会員の入会については、医療に携わる者である事その他、特に条件を定めない。

- 2 会員として入会しようとするものは、理事会の議決を経て理事長が別に定める入会申込書により理事長に申し込むものとし、理事長は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。
- 3 理事長は、前項のもの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、理事会において別に定める会費を納入しなければならない。

(会員の資格喪失)

第9条 会員が次の各号のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会したとき。
- (2) 本人が死亡し、若しくは失そう宣告を受け、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して2年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が次の各号のいずれかに該当する場合には、理事会の議決により、当該会員を除名することができる。この場合、理事会において議決する前に当該会員に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この法人の定款、規則等に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

(抛出金品の不返還)

第12条 既に納入した入会金、会費その他の抛出金品は、返還しない。

第3章 役員及び職員

(種類及び定数)

第13条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 3人以上
- (2) 監事 1人以上

2 理事のうち、1人を理事長、1人以上を副理事長とする。

(選任等)

第14条 理事は理事会において選任し、監事は総会において選任する。

2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。

3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは三親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び三親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

(職務)

第15条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

2 理事長以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。

3 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故があるとき又は理事長が欠けたときは、理事長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。

4 理事は、理事会を構成し、この定款の定め、総会の議決及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

5 監事は、次に掲げる職務を行う。

(1) 理事の業務執行状況を監査すること。

(2) この法人の財産の状況を監査すること。

(3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。

(4) 前号の報告をするために必要がある場合には、総会を招集すること。

(5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、又は理事会の招集を請求すること。

(任期)

第16条 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠又は増員により選任された役員任期は、それぞれ前任者又は現任者の残任期間とする。

3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第18条 役員が次の各号のいずれかに該当する場合は、理事は理事会の議決、監事は総会の議決により、当該役員を解任することができる。この場合、理事会又は総会において議決する前に当該役員に弁明の機会を与えなければならない。

(1) 心身の故障のため職務の執行に堪えないと認められるとき。

(2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があると認められるとき。

(報酬等)

第19条 役員には、報酬を与えることができる。ただし、役員のうち報酬を受ける者の数は、役員総数の3分の1以下でなければならない。

2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3 前2項に関し必要な事項は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

(職員)

第20条 この法人に、事務局長その他の職員を置く。

2 職員は、理事長が任免する。

第4章 総会

(種別)

第21条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(構成)

第22条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第23条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散
- (3) 合併
- (4) 事業報告及び活動決算
- (5) 監事の選任又は解任
- (6) その他運営に関する重要事項

(開催)

第24条 通常総会は、毎年1回開催する。

- 2 臨時総会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。
 - (1) 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。
 - (2) 正会員総数の5分の1以上から会議の目的を記載した書面により、招集の請求があったとき。
 - (3) 第15条第5項第4号の規定により、監事が招集するとき。

(招集)

第25条 総会は、第24条第2項第3号の場合を除き理事長が招集する。

- 2 理事長は、第24条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から起算して30日以内に臨時総会を招集しなければならない。
- 3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は書面に代わる電磁的方法によって、少なくとも総会の開催の日の5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第26条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

第27条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第28条 総会における議決事項は、第25条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。ただし、議事が緊急を要するもので、出席した正会員の2分の1以上の同意があった場合は、この限りではない。

- 2 総会の議事は、この定款に別に定めるもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(社員の表決権等)

第29条 各正会員の表決権は、平等とする。

- 2 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面、又は書面に代えて電磁的方法により表決し、若しくは他の正会員を代理人として表決を委任することができる。
- 3 前項の規定により表決した正会員は、第27条、第28条第2項、第30条第1項第2号、第52条及び第54条の適用については、総会に出席したものとみなす。
- 4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることはできない。

(議事録)

第30条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 正会員総数及び出席者数（書面表決者、電磁的方法による表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）
- (3) 審議事項
- (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
- (5) 議事録署名人の選任に関する事項

- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名しなければならない。

第5章 理事会

(構成)

第31条 理事会は、理事をもって構成する。

(権能)

第32条 理事会は、この定款で別に定めるもののほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第33条 理事会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の2分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第5項第5号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

(招集)

第34条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長は、前条第2号及び第3号の規定による請求があったときには、その日から起算して14日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は書面に代わる電磁的方法によって、少なくとも理事会の開催の日の5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第35条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(定足数)

第36条 理事会は、理事総数の過半数の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第37条 理事会における議決事項は、第34条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 理事会の議事は、この定款に別に定めるもののほか、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(理事の表決権等)

第38条 各理事の表決権は、平等とする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面又は書面に代わる電磁的方法により表決することができる。
- 3 前項の規定により表決した理事は、第36条、第37条第2項及び第39条第1項第2号の適用については、理事会に出席したものとみなす。
- 4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第39条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
 - (2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者、電磁的方法による表決者がある場合にあっては、その旨を付記すること。）
 - (3) 審議事項
 - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名しなければならない。

第6章 資産及び会計

(資産の構成)

第40条 この法人の資産は、次に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄附金品
- (4) 財産から生じる収益
- (5) 事業に伴う収益
- (6) その他の収益

(資産の区分)

第41条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産とする。

(財産の管理)

第42条 この法人の資産は、理事長が管理し、その管理方法は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

(会計の原則)

第43条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

(会計の区分等)

第44条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業に関する会計とする。

(事業計画及び予算)

第45条 この法人の事業計画及びこれに伴う活動予算は、理事長が作成し、理事会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第46条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前年度の予算に準じて収益費用を講じることができる。

2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

(予備費の設定及び使用)

第47条 予算超過又は予算外の費用に充てるため、予算中に予備費を設けることができる。

2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

(予算の追加及び更正)

第48条 予算作成後にやむを得ない事由が生じたときは、理事会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第49条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の承認を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第50条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(臨機の措置)

第51条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務を負担し、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

第7章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第52条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会において、その出席した正会員の4分の3以上の議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する事項を変更する場合、所轄庁の認証を得なければならない。

(解散)

第53条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併

- (5) 破産手続開始の決定
 - (6) 所轄庁による設立の認証の取消し
- 2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の承諾を得なければならない。
 - 3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。
 - 4 この法人が解散したときは、合併及び破産手続開始の決定の場合を除き、理事を清算人とする。

(残余財産の処分)

第54条 この法人が解散（合併又は破産手続開始の決定による解散の場合を除く。）したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、総会に出席した正会員の過半数をもって決した者に譲渡するものとする。

(合併)

第55条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第8章 公告の方法

(公告の方法)

第56条 この法人の公告は、官報に掲載して行う。

ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、当法人のホームページに掲載して行う。

第9章 雑則

(細則)

第57条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

附 則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。
 - (1) 正会員 年会費 1口2,000円
 - (6) 賛助会員 年会費 1口100,000円
- 3 この法人の設立当初の役員は、第14条第1項及び第2項の規定にかかわらず、別表のとおりとし、その任期は、第16条第1項の規定にかかわらず、設立の日から令和6年5月31日までとする。
- 4 この法人の設立当初の事業計画及び活動予算は、第45条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによる。
- 5 この法人の設立初年度の事業年度は、第50条の規定にかかわらず、設立の日から令和5年3月31日までとする。

別 表

役職名	氏 名	備 考
理事	対馬 義人	理事長
理事	鹿戸 将史	副理事長
理事	畠中 正光	副理事長
理事	安藤 容子	
理事	石田 隆行	
理事	小野澤志郎	
理事	金 舞	
理事	黒木 一典	
理事	近藤 博史	
理事	佐藤 友保	
理事	田島 廣之	
理事	中村 和正	
理事	細矢 貴亮	
理事	嶺 貴彦	
理事	村田 智	
理事	門前 芳夫	
理事	山口 雅人	
理事	山田 哲久	
監事	高木 亮	

留学助成金公募のお知らせ

日本スカンジナビア放射線医学協会日本支部では留学希望者の応募を受けつけています。希望者は以下の要項に従ってまずはメールにてお問い合わせください。

1. ノルウェー、デンマーク、フィンランド、スウェーデン及びアイスランドいずれかへの留学希望者を募ります。
2. 放射線医学を専攻している医師または歯科医師で日本医学放射線学会会員であること。
3. 国籍は問わない。
4. 留学期間は6 ヶ月以上であること。
5. 応募締切り；お問い合わせ下さい
6. お問い合わせ先 jsrs@jsrs.tokyo

留学助成金取得者リスト

<北歐への留学> ※所属は全て留学時

- 2021年（第36回） 大橋 茜（京都医療センター） 留学先:Lund University 指導医: Sophia Zackrisson
- 2018年（第33回） 大熊 ひでみ（東京大学） 留学先: University of Eastern Finland 指導医: R. Vanninen
- 2017年（第32回） 嶺 貴彦（東海大学） 留学先: Denmark 王立病院 指導医: Goetz Benndorf
- 2015年（第30回） 金 舞（群馬大学） 留学先: University of Turku 指導医: Heikki Minn
- 2012年（第27回） 鹿戸 将史（山形大学） 留学先: Oslo 大学 指導医: Per Kristian Hol
- 2010年（第25回） 小野澤 志郎（日本医大） 留学先: Malmoe 病院 指導者: M. Malina
朽木 恵（山形大学） 留学先: Denmark 王立病院 指導者: I. Viborg
- 2008年（第23回） 杉浦 公彦（鳥取大学） 留学先: Malmoe 病院 指導者: K. Ivancev
- 2007年（第22回） 山口 雅人（神戸大学） 留学先 Malmoe 病院 指導者: K. Ivancev
- 2006年（第21回） 町田 稔（国立がんセンター） 留学先: Karolinska 病院 指導者: G. Svane
- 2005年（第20回） 野村 美和子（三重大学） 留学先: Aarhus 大学病院 指導者: J. Overgaard
遠藤 育世（聖マリアンナ大学） 留学先: Oslo 大学 指導者: F. Laerum
- 2004年（第19回） 岸本 佳子（山口大学） 留学先: Goeteborg 大学 指導者: A. Hellstrom
南郷 峰善（大阪市立大学） 留学先: Malmoe 病院 指導者: K. Ivancev
- 2002年（第17回） 伊藤 宏彦（ワシントン大学） 留学先: Huddinge 病院 指導者 P. Aspelin
江川 亜希子（長崎大学） 留学先: Karolinska 大学 指導者: H. Ringertz
- 2001年（第16回） 南 和徳（長崎市立市民病院） 一 辞退
- 2000年（第15回） 築山 裕見子（埼玉医科大学） 留学先: Uppsala University 指導者: A. Hemmingsson, A. Magnusson
- 1999年（第14回） 中原 圓（日本医科大学） 留学先: Karolinska 病院 指導者: K. Ericson
- 1998年（第13回） 安藤 容子（一宮市立市民病院） 留学先: Oslo 大学 指導者: F. Laerum
- 1996年（第11回） 村田 智（筑波大学） 留学先: Malmoe 大学 指導者: K. Ivancev
- 1995年（第10回） 伊藤 浩（東北大学） 留学先: Karolinska 研究所
- 1994年（第9回） 佐藤 友保（国立福山病院） 留学先: Huddinge 病院 指導者: B. Calissendorff
- 1993年（第8回） 富口 静二（熊本大学） 留学先: Huddinge 病院 指導者: K. Mare; Karolinska 病院 L. Jorfeldt
対馬 義人（群馬大学） 留学先: Turku 大学 指導者: M. Kormanov
- 1992年（第7回） 黒木 一典（聖マリアンナ医科大学） 留学先: Oslo 大学 指導者: F. Laerum
児玉 行弘（名古屋大学） 留学先: Odense 大学 指導者: F. Mathiesen
- 1991年（第6回） 橋本 東児（昭和大学） 留学先: Karolinska 病院 指導者: H. Ohlsen
今村 正浩（関西医科大学） 留学先: Karolinska 研究所 腫瘍生物学II部門 指導者: L. Revesz
川島 隆太（東北大学） 留学先: Karolinska 研究所 指導者: P. Roland

- 1990年（第5回）** 山田 哲久（東京慈恵会医科大学） 留学先：Arhus Kommune Hospital 指導者：Bent Mdsen
 門前 芳夫（大村市立病院）
 留学先：Karolinska 病院 Radiumhemmet 指導者：R. Svanstroem, Radiosurgery C. Lindquist, Soeder sjukhuset U.Glas
- 1989年（第4回）** 保坂 純郎（下谷病院） 留学先：Oslo 大学 指導者：I. Enge., F. Laerum
- 1988年（第3回）** 井上 裕喜（鹿児島大学） 留学先：Turku 大学 指導者：M. Kormanio
- 1987年（第2回）** 上田 潤（住友病院） 留学先：Uppsala 大学 指導者：Uno Erikson
 細矢 貴亮（山形大学） 留学先：Lund 大学 指導者：Cronqvist
- 1986年（第1回）** 西山 謹司（大阪大学） 留学先：Karolinska Institutet(Radiumhemmet)
 田島 廣之（日本医科大学） 留学先：Karolinska Institutet(Thoraxkkiniken) 指導者：Alfred Szamosi

※2020年（第35回）、2019年（第34回）、2016年（第31回）、2014年（第29回）、2013年（第28回）、2011年（第26回）、2009年（第24回）、2003年（第18回）、1997年（第12回）は、該当者なし。

<日本への留学> ※所属は全て留学時

- 2015年** Kyoko Rasmussen (Hvidovre Hospital) 留学先：聖路加病院
- 1997年** Hanne Witt (Karolinska 病院) 留学先：日本医科大学（隈崎）、東京都立駒込病院
- 1995年** Pavel Kesek (Malmoe 大学) 留学先：日本医科大学（隈崎）、東京慈恵会医科大学
- 1993年** Bo Kalin (Karolinska 病院) 留学先：日本医科大学（隈崎）
 Jarmo Reponen (Oulu 大学) 留学先：大阪大学（小塚）
 Jan Reider Bjoerke (Vestfold Central Hospital) 留学先：国立がんセンター中央病院（牛尾）
- 1992年** Finn Mathisen (Odense 大学) 留学先：日本医科大学（隈崎）、大阪大学（小塚、池添）
- 1990年** Ralf Kallmam (Karolinska 病院) 留学先：日本医科大学（隈崎）、京都府立医大（河合）
- 1989年** Eie Herlitz (Karolinska 病院) 留学先：日本医科大学（隈崎）

会員申込書

年 月 日
正会員 賛助会員

氏名 <small>ふりがな</small>
所属
住所 〒 ☎ FAX E-mail
自宅 〒 ☎ FAX E-mail
放射線科の専門分野
研究主題
<p>・北欧留学(2週間以上)の経験の有無 <input type="checkbox"/>有 <input type="checkbox"/>無</p> <p><有>の方は具体的にご記入ください。</p> <p>①留学期間 年 月 日 ~ 年 月 日</p> <p>②留学施設</p> <p>③指導者</p> <p>④研修内容</p> <p>⑤取得した資格</p> <p>⑥その後の渡北欧歴(年・国名)</p> <p>⑦その後、コンタクトのある北欧放射線医学者</p> <p><無>の方は以下にご記入ください。</p> <p>①渡北欧の希望の有無 <input type="checkbox"/>有 <input type="checkbox"/>無</p> <p>②欧米の知識 <input type="checkbox"/>英 <input type="checkbox"/>仏 <input type="checkbox"/>独 <input type="checkbox"/>スウェーデン <input type="checkbox"/>デンマーク <input type="checkbox"/>ノルウェー <input type="checkbox"/>フィンランド <input type="checkbox"/>その他</p>
・その他ご意見やご質問があればご記入ください。

申込先 Fax: 027-220-8409, E-mail: jsrs@jsrs.tokyo

役員名簿

<役員>

日本支部

対馬 義人	理事長	群馬大学	鹿戸 将史	副理事長	山形大学
畠中 正光	副理事長	札幌医科大学	安藤 容子	理事	名古屋城北放射線科クリニック
石田 隆行	理事	大阪大学	小野澤 志郎	理事	杏林大学
金 舞	理事	群馬大学	黒木 一典	理事	杏林大学
近藤 博史	理事	協立温泉病院	佐藤 友保	理事	土谷総合病院
田島 廣之	理事	埼玉医科大学国際医療センター	中村 和正	理事	浜松医科大学
細矢 貴亮	理事	山形済生病院	嶺 貴彦	理事	日本医科大学北総病院
村田 智	理事	帝京大学ちば総合医療センター	門前 芳夫	理事	佐世保市総合医療センター
山口 雅人	理事	神戸大学	山田 哲久	理事	日本赤十字社医療センター
高木 亮	監事	日本大学			

スκανジナピア支部

Sweden	Rimma Axelsson	幹事	Stockholm
	Nils Dahlström	幹事	Linköping
Denmark	Søren Rafaelsen	幹事	Vejle
	Gina Al-Farra	幹事	Herlev
	Gençay Gül	幹事	Hvidovre
Norway	Ingfrid Salvesen Haldorsen	幹事	Bergen
	Harald Nes	幹事	Haugesund
	Mona Kristiansen Beyer	幹事	Oslo
Finland	Hannu. J. Aronen	幹事	Turku
	Jarmo Reponen	幹事	Raahe
Iceland	Hjalti Már Þórisson	幹事	Reykjavik

賛助会員名簿

<賛助会員>

1. GE ヘルスケアファーマ株式会社
2. エーザイ株式会社
3. メディキット株式会社
4. 富士製薬工業株式会社

事務局だより

本年度は、当協会がNPOとしての歩みをスタートした年です。そこで、節目となる今号の会報誌は、「協会の歴史回想」と題した特集を設け、刊行することになりました。寄稿文には、協会の歴史の他、当時の社会情勢や、協会設立の為に奔走していた方々の様子が投影されており、非常に感慨深いものがありました。そして、この歴史ある協会の事務局運営に携わることができるのは、大変光栄なことと改めて感じました。群馬大学が事務局を引き継いで3年目を迎えたところですが、これからも、日本とスカンジナビア諸国との友好関係を大切に繋いでいき、更に活動の輪を広げていきたいと思っています。

2023年5月ストックホルムで開催されたProgress in Radiology 2023は、当初は現地開催が危ぶまれていましたが、この春から、「新型コロナウイルス感染症」は、感染症法5類へと移行し、人々が自由に往来できるようになりましたので、多くの方に現地に足を運んでいただき、大盛況の内に幕を下すことができました。

ストックホルムでの学会の様子は、現地にご参加頂いた6名に、報告記としてまとめていただき、本誌に掲載いたしました。スウェーデンでの滞在の様子を臨場感たっぷりに皆様にお伝えできたのではないかと思います。

今号の会報誌も充実した内容で制作することができましたこと、原稿依頼にご快諾くださった隈崎達夫先生、田島廣之先生、Dr. Rimma Axelsson、石井芳樹先生、平澤裕美先生、Gu Wenchao先生、関優子様、佐藤有将様、竹内友一様には、この場をお借りして感謝申し上げます。

最後に、次年度開催の「Progress in Radiology 2024, 群馬」の開催に向け、事務局でも着々と準備を進めております。皆様にとってこの学会が有意義なものとなりますよう、関係者一同心を込めておもてなしさせていただきます。多くの方のご参加・演題登録を心よりお待ちしております。

日本スキャンナビ放射線医学協会事務局

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町3-39-22
群馬大学大学院医学系研究科放射線診断核医学内

E-mail: jsrs@jsrs.tokyo (メールにてお問い合わせください)

TEL: 027-220-8401 FAX: 027-220-8409

環状型MRI用造影剤 薬価基準収載

ガドテル酸メグルミン[®] 静注38%シリンジ 10mL / 11mL / 13mL / 15mL / 20mL [GE]

ガドテル酸メグルミン注射液

処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること



効能・効果、用法・用量、警告・禁忌（原則禁忌を含む）および使用上の注意等の詳細につきましては、最新の添付文書をご参照ください。

Rev.1.1 2023/09 3J-1 (MKT-MQ) V4C12 JB08429JA

製造販売元（製品情報お問い合わせ先）

GEヘルスケアファーマ株式会社
東京都港区高輪4-10-18 TEL 0120-241-454

GEファーマ



末梢用ガイドングシースキット

Parent Plus®

Medikit Peripheral Guiding Sheath Kit

変わらぬ性能で
安定したEVT手技をサポートします

6Fr

4.5Fr

3Fr

末梢用ガイドングシースキット

Parent® Select

Medikit Peripheral Guiding Sheath Kit

血管内治療ストラテジーに適した
ガイドングシースサイズを“Select”する

5Fr



Parent® Select 5082



Parent® Select 4575

4.5Fr

末梢用ガイドングシースキット

Parent Cross®

Medikit Peripheral Guiding Sheath Kit

デバイス通過性と末梢到達性にフォーカスした
ガイドングシースの選択肢

7Fr

6Fr

承認番号: 23100BZX00050000



メディキット株式会社

発 売 元 : メディキット株式会社 〒113-0034 東京都文京区湯島 1-13-2 TEL.03-3839-0201
製造販売元 : 東郷メディキット株式会社 〒883-0062 宮崎県日向市大字日知屋字亀川 17148-6 TEL.0982-53-8000
営 業 所 / 東京・札幌・仙台・埼玉・千葉・八王子・横浜・金沢・名古屋・京都・関西・神戸・広島・松山・福岡・宮崎
流通倉庫 / 宮崎県日向市・千葉県佐倉市
<http://www.medikit.co.jp/> <http://www.togomedikit.co.jp/>

患者様の想いを見つめて、 薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。
病気とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。
私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、
そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合っていたいと思います。
治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。
病気を見つめるだけでなく、想いを見つめて、薬は生まれる。
「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ





イオパミドール注「F」

イオパミドール150注「F」
50mL/200mL

イオパミドール300注「F」
20mL/50mL/100mL

イオパミドール370注「F」
20mL/50mL/100mL

イオパミドール300注シリンジ「F」
50mL/80mL/100mL/150mL

イオパミドール370注シリンジ「F」
50mL/65mL/80mL/100mL

非イオン性尿路・血管造影剤 イオパミドール注射液
処方箋医薬品^{注)} 薬価基準収載



IOHEXOL

イオヘキソール注「F」

イオヘキソール300注「F」
20mL/50mL/100mL

イオヘキソール350注「F」
20mL/50mL/100mL

イオヘキソール240注シリンジ「F」
100mL

イオヘキソール300注シリンジ「F」
50mL/80mL/100mL/110mL/125mL/150mL

イオヘキソール350注シリンジ「F」
70mL/100mL

非イオン性造影剤 イオヘキソール注射液
処方箋医薬品^{注)} 薬価基準収載

注)：注意—医師等の処方箋により使用すること。

■効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等につきましては添付文書をご参照ください。

製造販売元
(資料請求先)



富士製薬工業株式会社

〒939-3515 富山県富山市水橋辻ヶ堂1515番地
<https://www.fujipharma.jp/>

